

神戸が目指す これからの学校の姿

「人がつながり ともに創る みんなの学校」

令和4年5月

神戸市教育委員会

<学校づくりの指針>

神戸が目指す これからの学校の姿

「人がつながり ともに創る みんなの学校」

(コンセプト)

子供たちの生きる力を育むのは、人と人とのつながり。
学校、保護者、地域の皆さんのつながりの輪の中で、
地域とともに創る学校を実現し、未来の担い手となる神戸っ子を育みます。

(取組の3本柱)

- 1 育てたい子供の姿を共有します
育てたい子供の姿を保護者、地域の皆さんと共有し、
連帯感を持って子供たちの学びと成長を支えます。
- 2 親しみやすい学校をつくります
地域がつながる場として、みんなが訪れたいくなる、
親しみやすい学校環境をつくります。
- 3 子供を育む活動をともに進めます
保護者、地域の皆さんとの関わり合いと連携を深め、
育てたい子供の姿の実現に向けて、ともに活動を進めます。

目次

1. 策定の趣旨	1
2. 概要	2
3. コンセプト	3
4. 取組の3本柱	4

1. 策定の趣旨

近年、技術革新やグローバル化、少子高齢化の進展など、急速な社会の変化に伴い、学校を取り巻く状況は複雑化・多様化しています。

こうした中、「心豊かにたくましく生きる」神戸の子供たちを育むには、保護者、地域の皆さんと「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を共有し、これまで以上に連携を深め、地域全体で子供たちの学びや成長を支える学校づくりを進めていく必要があります。

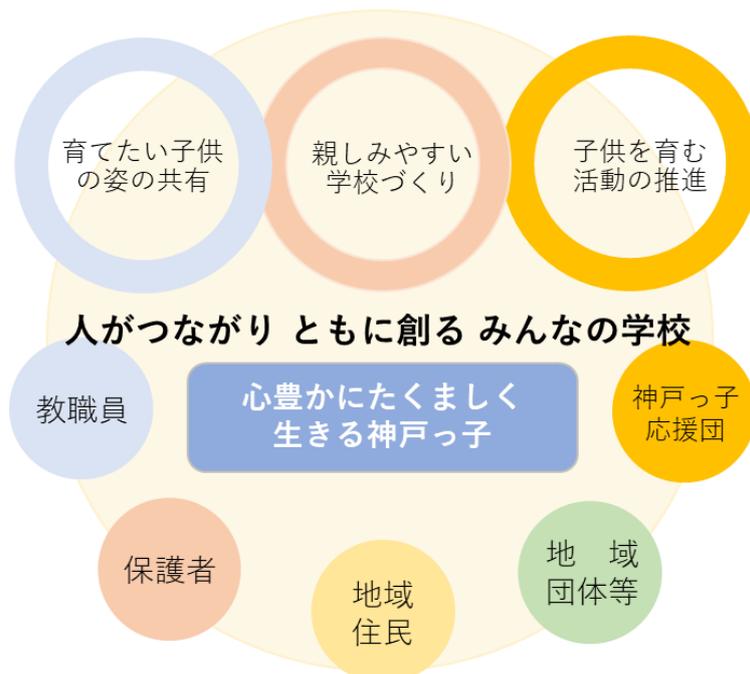
地域に開かれた学校から一歩踏み出し、「地域とともに創る学校」としていくための中心となる取組が、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進です。本市では、保護者・地域の皆さんのご意見を学校運営に活かす学校運営協議会の設置を段階的に進めており、令和4年度中にすべての小・中学校、義務教育学校に学校運営協議会を設置することとしています。

このコミュニティ・スクールの全市展開にあたって、令和3年12月より、学識経験者や保護者、地域の皆さんの参画による「開かれた学校づくりに関する有識者会議」を開催し、それぞれの立場からみたコミュニティ・スクールの現状や課題、目指すべき学校づくりの方向性について議論を重ねてきました。

「神戸が目指す これからの学校の姿 -人がつながり ともに創る みんなの学校-」（以下、「神戸が目指す これからの学校の姿」）は、同会議の議論を踏まえて、本市が目指す学校づくりのコンセプト、柱となる取組を明らかにしたものです。

取組の3本柱については、すべての小・中学校、義務教育学校に学校運営協議会を設置する令和4年度から令和5年度の、いわば「導入期」をイメージしたものです。この「導入期」においては、まずは、学校が地域に開かれた学校づくりに対して明確に意識を持ち、保護者や地域の皆さんとその意識を共有し、ともに取組を進めていくことが重要です。したがって、取組の3本柱についてはいずれも学校の行動指針として定めています。今後、各校の取組状況の成熟度を踏まえ、適時、内容を見直していきます。

「神戸が目指す これからの学校の姿」を学校づくりの指針とし、保護者、地域の皆さんとのつながりの輪の中で、「心豊かにたくましく生きる」神戸の子供たちを育てていきます。



2. 概要

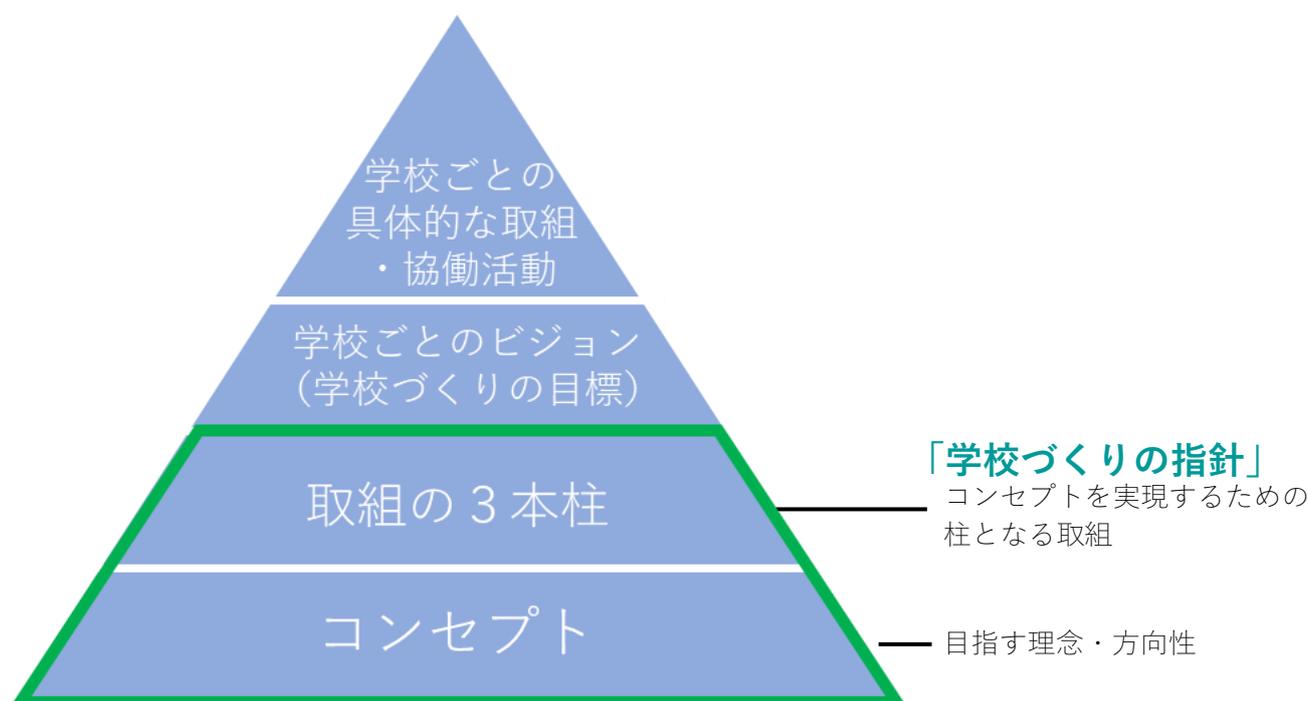
(1) 構成

「神戸が目指す これからの学校の姿」は、本市における学校づくりの指針として、理念・方向性を表す「コンセプト」と、それを実現するための「取組の3本柱」から構成しています。

各学校園において、「コンセプト」、及び「取組の3本柱」を踏まえ、育てたい子供の姿とそれを実現するための取組を明示した学校ビジョンを作成します。

そして、保護者、地域の皆さんと同じビジョンのもと協働活動を実施し、一体となって「地域とともに創る みんなの学校づくり」を進めていきます。

<学校づくりの指針と取組の全体像>



(2) 位置づけ

「神戸が目指す これからの学校の姿」の策定は、第3期神戸市教育振興基本計画の重点事業である「地域と学校との協働による社会に開かれた教育の実現」、及び神戸市教育委員会改革方針 2021 に掲げる「開かれた学校づくり」を具体的に推進するための取組の一つです。

(3) 取組の3本柱の考え方

今回の取組の3本柱は、すべての小・中学校、義務教育学校に学校運営協議会を設置する令和4年度から令和5年度の「導入期」をイメージしています。

各校の取組の成熟状況を踏まえて見直しを図り、段階に応じて取組の柱を再設定していきます。

3. コンセプト

子供たちの生きる力を育むのは、人と人とのつながり。
学校、保護者、地域の皆さんのつながりの輪の中で、
地域とともに創る学校を実現し、未来の担い手となる神戸っ子を育みます。

これからの時代において、複雑化・多様化する教育課題に適切に対応し、一人一人の子供に寄り添った質の高い教育を提供するためには、学校、保護者、地域の皆さん、それぞれが多様な経験やスキルをもち寄り、社会総がかりで子供たちの学びや成長を支えていく必要があります。

子供たちを中心に据えて、保護者、地域の皆さんと連帯感をもって教育活動に取り組む学校、人と人とのつながりの輪の中で子供たちの生きる力を育む学校、これが、本市が目指すこれからの学校の姿です。

4. 取組の3本柱

1 育てたい子供の姿を共有します

育てたい子供の姿を保護者、地域の皆さんと共有し、連帯感を持って、子供たちの学びと成長を支えます。

保護者、地域の皆さんに当事者として学校運営に参画いただくためには、どのような子供を育てたいのか、そのビジョンを共有することが不可欠です。

子供たちの今の姿や自校の現状・課題、地域特性等を踏まえ、学校教育を通じてどのような能力・資質を育み、保護者や地域の皆さんの思いにこたえていくのか、そのビジョンを校長が作成し、学校運営協議会で共有してご理解をいただくプロセスを踏むことが、「地域とともに創る学校」への出発点となります。

2 親しみやすい学校をつくります

地域がつながる場として、みんなが訪れたいくなる、親しみやすい学校環境をつくります。

「地域とともに創る学校」を実現するためには、保護者、地域の皆さんにとって、学校が身近で親しみやすい場であることが求められます。そのためには、学校、保護者、地域の皆さんとお互いの情報を共有し、相互理解を深めていくことが欠かせません。まずは、学校の状況、とりわけ子供たちの実情に関する正確な情報を積極的に発信し、保護者、地域の皆さんの学校に対する関心を高め、取組をご理解いただく必要があります。

さらに、子供たちにとって安全で安心できる、質の高い教育環境づくりをより一層進めるとともに、学校施設のさらなる開放や施設の共同管理等を通じ、地域がつながる場としていくことが重要です。

3 子供を育む活動をともに進めます

保護者、地域の皆さんとの関わり合いと連携を深め、育てたい子供の姿の実現に向けて、ともに活動を進めます。

これからの学校教育は、保護者、地域の皆さんとの協働なくして成り立つものではありません。学校運営協議会において育てたい子供の姿や学校ビジョンについて熟議し、神戸っ子応援団等と一緒にあって、その実現に向けた活動を進めていく必要があります。

まずは学校や地域の実情に応じて可能な活動からスタートし、その成果を発信・共有することにより、参加者の数を増やし、協働活動の輪を広げる。学校教育を持続可能なものとするためには、こうした子供と大人（教職員、保護者、地域住民、地元団体・企業、神戸っ子応援団等）の関わり合いによる好循環を生むことが重要です。